

## 第22回全国会員大会

〈とき〉 1977年(昭和52)4月10日

〈ところ〉 別府国際観光会館

〈出席〉 1,196名

〈年間のおもな動き〉 当連合会の運営に関する規定などを設けたほか、当年度は前年度に決定(7月23日理事会)をみた木材PR標語3点(応募800)を普及。また全業界から受け入れられた「木の日」設定呼びかけを7月9日の理事会で決定。研究セミナーも多くの会員が参加し開催されるようになった。「木の日の設定について」の全文は次のとおり。

### “木の日”の設定について

昨今のように安定した世の中になると、人間生活の中で、水や空気と同じように、つい忘れがちであった「木」の存在を、やゝ見直そうとする意識が一般の人々の中に芽生えて来たことは、私達木材に関係あるものにとって大変よろこばしいことでもあります。

他業界では、例えば6月4日をムシ歯の日と定め、歯科医を中心に国民こぞで歯の健康に目覚めさせ、また毎月29日を肉の日として食肉の販売に力を注ぐなど、それぞれの業界が自分達の扱っているものを、一般の人々に広く意識付けしようと懸命に努力している姿が数多く見うけられます。

昔から、木は人間の住まいを中心に、家具、家庭用品、学校教材、梱包用材等と、巾広く私達の日常生活の中にとけこみ、なくてはならない素材として身近かに使用されて来ました。

また、山の木々は国土の治山治水、緑化と環境保全など、人間に大きな利益を与えています。まさに「木」が存在してこそ、人々の生活安定が保たれて来たといえましょう。

また、木という資源は鉄や石油などと違って、この地球上において、極めて短い周期で再生産される誠に便利な資源の一つであります。

この身近かにある「木」というものを、よりいっそう一般の人々に知っていただく時が来たと思います。

そこで、日本木材青壮年団体連合会では、内部において種々協議の結果、毎年10月8日を“木の日”と定めることに意見の統一を見ました。

それには、大きく3つの理由があります。

1つは、単純に考えて「木」という文字は、漢字で書くと十と八で構成されているということです。前述しましたように、6月4日をムシ歯の日と称し29日を肉の日と定めたことと同様な考え方からです。

2つには、昔から秋は木材、木造住宅建設の最盛期であり、1年のうちでいちばん木材の需要期でもあります。

3つには、新年度入りの春に比べて各団体の内部組織が十分に整い、種々な行事を実施するうえにおいても、時期的にいちばん良いと判断したからであります。

中には、植樹の最適な、春5月頃という意見もありましたが、秋でも植樹は十分可能であり、全てのことを考えたとき、森羅万象みのりの秋に、この記念すべき“木の日”を設定するよう提案した次第です。

“木の日”が設定された暁には、この記念日を中心に、全国各地で木材祭り、木材ショー、講演会、木魂（霊）祭、植樹祭、チビッコ木工展、従業員永年勤続表彰式等、各種の催物を挙行し、“木の日”が意義あるものとして、広く国益にも通ずる日を夢見たいと存じます。

木材業関連の皆様方、以上“木の日”の設定については如何でしょうか。また、10月8日を“木の日”と定めることについて、ご同意をいただきますれば幸甚と存じます。

なお、ご賛同いただけますならば、私達の手で、この趣旨を各方面に徹底させていきたいと思っておりますので、その節はよろしくお取計いのほど、お願い申し上げます。

昭和52年7月

日本木材青壮年団体連合会会長 西川 寛  
同 木材PR部会長 影山 弥太郎